

「潜水漁業者における作業の実態に関する研究」

0911062 戸谷 崇 (海洋スポーツ・健康科学研究室)

I. 目的

昭和 30 年代に全盛期を迎えていた海女の数は、平均年齢が 65 歳に近づくほど高齢化したうえに、若い後継者の不在で衰退の状態にある。海女文化は減退し、一部では海女文化を無形世界遺産に登録しようとする運動が行われている。海女についての研究は、海女に関する文化的な研究の他、潜水中のアマの心肺機能や心電図変化、潜水特性に関する研究が見られる。しかし、海女の漁における作業の実態そのものに関する研究は十分でない。そこで、本研究では潜水漁業者の作業の実態を明らかにするとともに、潜水漁業が行われている地域での新しい資源管理や環境保護の方法を提示するための資料の収集を目的とした。

II. 方法

調査協力者は、千葉県南房総市白浜町のアマ 2 名であった。協力者が実際に漁を行う際に水温・水深・加速度・GPS の記録が可能なデータロガー及び小型ビデオカメラを装着してもらうことにより潜水漁業者の視点からの映像データを収集した。2012 年 9 月 5 日・6 日に調査を行い、計 4 回の漁におけるデータを収集した。

III. 結果

4 回の漁における計 116 回の潜水時間・水深・インターバルのデータを収集した。フナドとカチドのデータでは潜水回数においてフナドの方が少なく、平均潜水時間・平均インターバル・平均水深がフナドの方が大きいという結果が見られた。カメラによるデータでは海中の様子や作業の実態が分かる操業者の視点からの映像データが得られた。

IV. 考察

これまでのアマ研究ではアマの水環境への生理学的適応の解明を主眼としたものや時代背景についての研究が多く、アマが漁をしている間に関する研究は、潜水中における心電図の測定や、潜水時間とインターバルの測定を行うものであった。今回の調査ではデータロガーに GPS を組み入れアマの行動をプロットすることができた。また、カメラによる映像とデータロガーのデータをリンクさせることでどの地点でどのような行動をし、アワビがどの地点で獲れたかを記録することができた。今回の調査方法を用いて、継続的な調査をすることでアワビの生息地の細かなマッピングや資源状態を記録することも可能になると考えられる。

V. 結論

本調査ではアマ自身に機器を装着してもらうことで、潜水時間、水深、インターバル時間等のデータ、アマ視点の映像資料や GPS を用いて行動範囲をプロットすることができた。異なる操業方法を行っているアマには、それぞれの潜水特性が見られた。また、潜水特性において先行研究と比較して地域差が見られ、この潜水特性は身体特性や経験によっても異なると推察される。

主な参考文献

竹内久美ら(1987)「全国の潜水漁業者の実態調査—分布、年齢層および潜水法など—」